



「思いをカタチに」～令和3年度の終わりを迎えて～

3月18日、修了式を行いました。1年が終わり、そして新たな年度がまた始まるうとしていきます。

「思いをカタチに」は、秋田県教育委員会（特別支援教育課）で行っている、特別支援教育コーディネーターを対象とした研修会で、特別支援教育の教育専門監（当時）が講義の中で述べた言葉です。個別の教育支援計画に係る講義で、障害のある子ども達への支援等にあたっては、子どもやその保護者、教師などの思いや願いを大切に共有し、それを形（カタチ）にするのが個別の教育支援計画である、という内容でした。

今年1年間、児童生徒達の様々な思いや願いに触れてきました。そして、その思いや願いを授業に反映させることができるように努めてきました。

コロナ禍において「友達に会いたい」「校外に出かけたい」という願いを基にして行った、中継による合同学習や水族館のバーチャル体験、「あてたい（正解したい）」という思いを生かした学習の導入の工夫、自分の力で製作等ができるための教材・教具の開発と活用等々・・・（*これら様子については、#03・06・13・14・18をご覧ください）

思いや願いがかなう時の、笑顔あふれる情景は忘れることができません。

学校における「カタチ」の一つは、授業であることを実感しています。

「思いをカタチに」・・・素敵な言葉だな、と思います。

もうすぐ始まる令和4年度は、「ゆり支援学校道川分教室」として最後の年になります。思いや願いがカタチになる日々とし、さらに笑顔あふれる1年にしたいと思っています。



【もうすぐ春がやってきます】

～ ①冬のチューリップ花壇 ②③芽を出し始めたチューリップ花壇 ④昨年のチューリップ花壇～